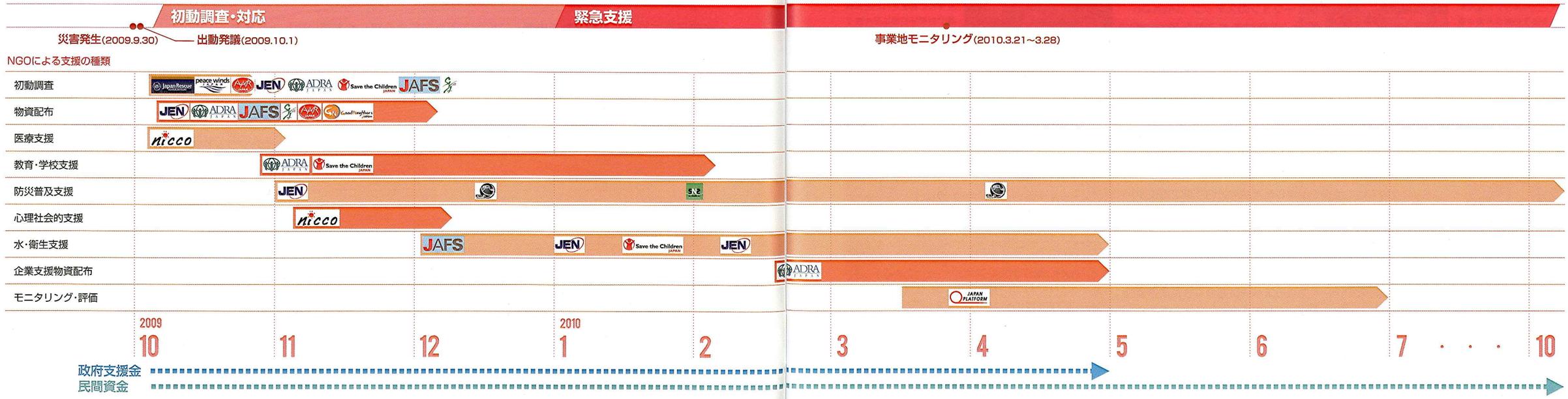
必要とされる支援を、必要な時に、必要な人々へ届けました。

死　者	：	1,117人
重傷者	：	788人
軽傷者	：	2,727人

出所：　世界保健機構（World Health Organization、WHO）（2009年11月3日）

マグニチュード	：	7.6
発生日	：	2009年 9月 30日
発生時刻	：	17時 16分（日本時間：19時16分）

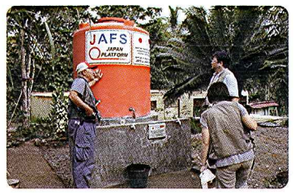
出所：　国連人道問題調整事務所（United Nations Office for the Coordination of Humanitarian Affairs、UNOCHA）（2009年9月30日）



※JPF事業終了後も、自己資金や他助成金により現地での事業を継続予定。　※NGOのロゴマークは各支援の種類における事業開始時期を表示。なお、1つの事業に複数種類の支援が含まれる場合があります。

初動調査・対応 ①
被災した学校の先生に学用品や遊具を手渡すSCJスタッフ
©SCJ

初動調査・対応 ②
防災教育ワークショップの一環として行われた避難訓練の様子
©JEN



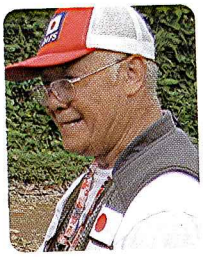
緊急支援 ①
JAFSにより設置された給水施設を視察するスタッフと外部専門家
©JPF

緊急支援 ②
巡回建設指導中に被災者へ技術トレーニングを行うSNSスタッフ
©SNS

各NGOの強みを活かした支援を実施しました。

社団法人 アジア協会アジア友の会(JAFS)

http://www.jafs.or.jp/



藤原　建男

プロジェクト・マネージャー
パキスタン北西辺境州地震、ジャワ島中部地震、スマトラ島南西沖地震、バングラデシュサイクロン・シドル被災者支援で、地域のエンパワーメントのための現場指導に従事

支援を通じて培われた住民同士の協働

地震発生後、2009 年 10 月 12 日から 2010 年 3 月 31 日まで 3 次に渡り、物資配布や小学校を中心にした井戸供給の支援を行いました。

井戸供給の支援では、人間にとって最も基本である飲料水・生活水を住居近くに確保することにより、生活の安心と時間的余裕を生み出し、復興へ向けて住民同士が協働できる基礎づくりをすることを目的に活動を展開しました。

実施にあたり、まずは学校、教育省、地主を含む周辺住民、郡行政に支援内容を説明。設備のメンテナンスや管理などの誓約書を作成してから支援に取り組みました。支援が原因で紛争が起こることのないように、いつも気をつけていました。さらに、現地スタッフにすべてを任すのではなく、国際スタッフがこまめに現場を回り、村人のニーズは何かを把握。そのニーズに応えるために何が必要かを話し合いました。

支援の成果として、様々なフェーズで住民の協働が物事を動かすこと、また、形に残る設備だけにとどまらず、地域社会の環境改善に向かうソリューションのステップ（Plan Do Check Action）の重要性にも気付いてもらうことができました。

感謝の言葉

以前は、体を洗うのと洗濯をするのにいつも川まで行かないといけませんでした。乾季になると、川の水の量は少なくなり、ごみもたくさん流れてきました。だから体がかゆくなることがよくありました。今では、自分の住む地域できれいな水が簡単に手に入り、子どもを自分の家で水浴びさせることもできるようになり、とても嬉しいです。本当にありがとうございました。　ウピさん　37歳　主婦

被災した村の村長宅前で物資配布の準備をするJAFSスタッフ
©JAFS

小学校に設置された給水施設でお祈りの前に足を洗う子どもたち
©JAFS

特定非営利活動法人 ジェン(JEN)

http://www.jen-npo.org/

若野　綾子

インドネシア・スマトラ島西部パダン沖地震被災者支援事業
プログラムオフィサー
2009年12月から2010年4月まで本部担当

瓦礫撤去と防災教育が支えた復興の力

今回の支援では、地震で倒壊した家屋などの瓦礫を撤去するのに必要な道具を配布しました。

被災者の方々は、道具を使って瓦礫の下に埋もれた家具や衣類を取り出すことにより、被災前に使用していた家財道具で生活を再建することが可能になりました。また瓦礫を動かすことで、避難用のテントを張るスペースもつくりだすことができました。

さらに防災教育支援も行いました。支援対象地域の人々の中には、地震に関する正しい知識がないばかりに、今回の地震を「神様の罰」であったと理解し、傷ついた人も少なくありませんでした。また、「あと○○週間後に地震が来る」という根拠のない噂が広まり、人々が怖がるという事態も発生していました。防災教育支援では、地震の発生メカニズムや被災した際の対応に関する知識を得てもらうことで、人々の心に安心感をもたらしたと言えます。

このように皆様のお陰で実現した、瓦礫撤去のための道具配布と防災教育の支援は、被災地域に様々な効果を生み出し、被災した方々の復興する力を支えました。

感謝の言葉

スマトラ島西部パダン沖地震被災者支援の事業に対して、ご支援をくださり本当にありがとうございました。皆様が迅速にくださったご支援により、JEN は地震発生後すぐに活動を開始することができました。緊急の支援で迅速さが最も必要とされる時期に、JPF を通して、日本の NGO を信頼してくださったことを心から感謝申し上げます。引き続き、世界の紛争地、被災地で JPF 事業実施団体として活動してまいりますので、どうぞ温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

受け取った道具で倒壊した家屋の瓦礫を撤去する被災者
©JEN

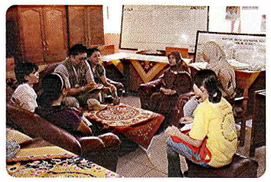
JENスタッフによるトイレの維持管理方法の説明に耳を傾ける先生と学生
©JEN

今回の支援事業で得た教訓を、次へとつなげます。

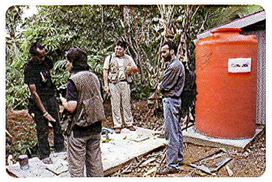
モニタリング・評価概要

※敬称略　※順不同

派遣者　：山本博之　京都大学地域研究統合情報センター　准教授
　　瀧田真理　JPF事務局　広報担当マネージャー
　　早川香苗　JPF事務局　事業部員
調査地　：パダン市、パリアマン市、パダン・パリアマン県
調査期間：2010年3月21日～3月28日
調査内容：事業地視察（AAR、ADRA、JAFS、JEN、NICCO、SCJ、SNS）
　　情報交換等（日本大使館、JICA、西スマトラ州日本人会、パダン・パリアマン県教育局、PT.NNA INDONESIA、朝日新聞社ジャカルタ支局、The Daily Jakarta Shimbun、時事通信社ジャカルタ支局、パダン・エクスプレス新聞社）



SCJが手洗い場設置と衛生教育を行った学校にて、校長先生へ支援前後の状況変化を聞き取り調査
©JPF



JENが学校に設置したトイレにて、現地のエンジニア・スタッフから浄化槽の仕組みの説明を受ける
©JPF

主な評価

迅速かつ多様な支援を実現

多くのNGOが地震発生直後から被災地に入り、現地で培ったネットワークなどを活用して、支援が届きにくい人々や地域へ積極的な支援を展開した。また、日本独自の技術を伝える団体もあれば、国際標準に合わせた支援を展開する団体もあるなど、多様なNGOが参加するJPFの特長が十分に活かされた支援を実現することができた。

被災前から存在する課題の克服に寄与

被災地域は地震発生前から、安全な水の確保が困難で、家屋の耐震性が低く、建築職人の生業も不安定という問題を抱えていた。これに対しNGOは、衛生的な水の確保や建築職人への技術トレーニングなどの支援を行った。被災地域を「被災前の状態に戻す」のではなく、被災を契機に課題克服に寄与する支援が展開されたことは高く評価できる。

日本の強みを活かした支援の展開

本事業では、インドネシア社会が高い関心を持つ「防災・耐震技術」や「リサイクル・環境技術」の要素を取り入れた支援が複数展開された。また、避難訓練や衛生教育など、日本が培ってきた技術や経験の移転を念頭に置いた支援も見られ、JPFが日本を拠点とすることの強みを最大限発揮する事業になったと言える。

主な提言

支援対象地域に関する事前の情報収集

地域住民のつながり方や外部来訪者に対する反応など、支援対象地域の社会的特徴を事前に把握することで、より効果的な支援活動を期待できる。そこで、NGOが事業計画書を作成する際に地域研究者から助言を得ることはできないか。地域研究コンソーシアムと連携して、緊急時に地域研究者を紹介する仕組みをつくることも検討に値する。

現地語メディアや地域専門家の積極的な活用

地元新聞などの現地語情報を積極的に活用してはどうか。現地語の情報量は多く、支援活動の円滑化にも寄与するはずなので、その活用方法を検討することが望まれる。また、支援内容について地元社会に知ってもらう上でも、地元新聞社との協力は重要である。現地語情報の収集や分析にあたっては、地域研究者を活用することも期待される。

支援終了後の情報の蓄積と共有

支援を行う過程で得られた支援対象地域の特徴、課題、今後の展望などの情報を蓄積し、支援終了後に他団体と共有することが望まれる。特に地震は同じ場所で繰り返し起こる災害であるため、再度同じ地域で支援を行う際の貴重な情報源となる。こうした取り組みは、JPFのように多くの団体が参加する組織にこそ適している。

専門家の視点

NGOの多様性の評価と活用が今後の鍵

インドネシアのような開発途上国では、災害発生前から人々は社会生活上の様々な課題を抱えており、災害はそれらの潜在的な課題を露呈する働きがある。

本事業の被災地では、安全な水の確保が難しいという問題と、建築職人の技術が低いため、家屋の耐震性が弱く、建築職人の生業も不安定であるという問題を抱えていた。NGOはこれらの課題に積極的に取り組み、被災を契機にその地域が抱えていた問題の解決の糸口になるような支援を提供した。この点は極めて高く評価される。

さらに、支援が届きにくい山間部に分け入り、あるいは粘り強く交渉して支援への理解を求める姿は、災害後に迅速に被災地入りして短期間で効果的に支援を終えたことと合わせて、地元社会に大きなインパクトを持って受け止められた。

このように、JPFの強みは多様なNGOがそれぞれの特性を活かして、支援を展開していることにある。今後は、NGOの多様性をどのように評価するかが課題となるだろう。多様性を維持・発展させつつ、各団体が提供する支援関連の情報を蓄積・共有することで、JPFとして特長のある支援が継続されることを期待したい。

山本　博之 氏

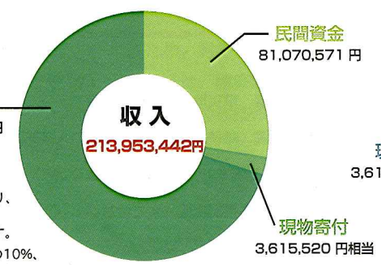
京都大学地域研究統合情報センター・准教授
インドネシア・マレーシアの地域研究、特に災害時の対応と情報管理が専門

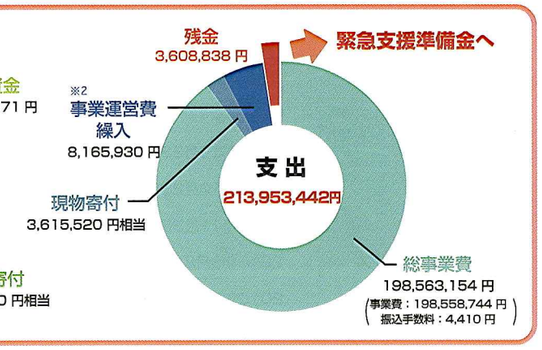
事業期		団体名	事業名	実施期間	財源	当初予算額
初動	調査	AAR	初動調査事業	始期：2009年10月4日 終期：2009年10月17日	政府	¥1,030,960
		ADRA	スマトラ島初動調査および支援物資配布事業	始期：2009年10月7日 終期：2009年10月20日	政府	¥3,331,106
		JAFS	初動調査及び生活物資配布事業	始期：2009年10月12日 終期：2009年11月4日	政府	¥11,374,200
		JEN	スマトラ地震被災者支援　初動調査・緊急支援事業	始期：2009年10月5日 終期：2009年10月30日	政府	¥11,198,200
		PWJ	スマトラ島西部地震　初動調査	始期：2009年10月3日 終期：2009年10月10日	政府	¥1,526,060
		SCJ	スマトラ島パダン沖地震における初動調査	始期：2009年10月11日 終期：2009年10月18日	政府	¥812,660
		SVA	被災地初動調査及び緊急支援物資配布	始期：2009年10月17日 終期：2009年12月5日	政府	¥9,778,565
	対応	AAR	インドネシア共和国・パダン市の障害児世帯への緊急食糧配布事業	始期：2009年10月28日 終期：2009年12月16日	政府	¥12,185,820
		ADRA	スマトラ島西スマトラ州パダンパリアマン県における教育支援事業	始期：2009年10月26日 終期：2010年2月5日	政府	¥10,900,360
		EWBJ	山岳道路斜面と建築物の復旧への技術移転支援事業	始期：2009年12月13日 終期：2009年12月23日	民間	¥3,611,200
		GNJP	スマトラ島西部パダン沖地震被災者支援第3次物資配布事業	始期：2009年11月6日 終期：2009年11月15日	政府	¥2,195,500
		JAFS	パダン・パリアマン県に於ける飲料水・生活水確保の為の支援事業	始期：2009年12月2日 終期：2009年12月31日	政府	¥9,309,760
		JEN	スマトラ地震被災者支援　緊急支援事業2	始期：2009年11月1日 終期：2009年12月31日	民間	¥18,124,200
		JRA	地震被災者の捜索および救出救助事業	始期：2009年10月3日 終期：2009年10月8日	民間	¥4,707,269
		NICCO	スマトラ島における緊急医療支援事業	始期：2009年10月3日 終期：2009年11月2日	政府	¥10,542,900
		NICCO	パダン・パリアマン県におけるシェルター建設支援と心理社会的ケア事業	始期：2009年11月4日 終期：2009年12月7日	民間	¥12,463,685
		SCJ	西スマトラ州における緊急教育支援事業	始期：2009年11月4日 終期：2010年1月2日	政府	¥9,366,500
			小計：17事業		政府 民間	¥132,458,945 ¥93,552,591 ¥38,906,354
緊急		EWBJ	都市地域および山岳部の復旧技術指導3次支援事業	始期：2010年4月4日 終期：2010年4月16日	民間	¥4,410,249
		JAFS	パダン・パリアマン県に於ける飲料水・生活水インフラ整備支援事業	始期：2010年2月5日 終期：2010年3月31日	政府	¥11,700,000
		JEN	スマトラ地震被災者支援　緊急支援事業3	始期：2010年1月1日 終期：2010年4月30日	政府 民間	¥6,776,300 ¥18,234,000
		SCJ	西スマトラ州における緊急衛生教育事業	始期：2010年1月14日 終期：2010年3月31日	政府	¥16,121,840
		SNS	西スマトラ州パダン・パリアマン地区における巡回建築指導事業	始期：2010年1月30日 終期：2010年4月15日	民間	¥6,117,280
			小計：5事業		政府 民間	¥63,359,669 ¥34,598,140 ¥28,761,529
モニタリング		JPF	モニタリング及び事業実施報告書作成事業　★	始期：2010年3月15日	政府 民間	¥1,116,620 ¥1,623,510
			小計：1事業		政府 民間	¥2,740,130 ¥1,116,620 ¥1,623,510
			合計：23事業		政府 民間	¥198,558,744 ¥129,267,351 ¥69,291,393

※ 現在実施中の事業があるため、当初予算額のみ掲載。
※ ★の事業は現在実施中。
※ 事業名については、契約書記載のものとします。
※ 全事業は2010年10月終了予定。

収支報告※1

（2010年5月末時点）





※1 収支報告は5月末時点の金額であり、最終会計報告は全事業終了後、JPFウェブサイトにて掲載致します。
※2 事業運営費として企業・団体寄付の10%、個人寄付の15%を繰り入れています。

サービスによるサポート

日本航空
「支援物資の空輸のお申し出と、支援者渡航の協力（渡航活用＝6 団体 8 名）」

全日本空輸
「支援物資の空輸のお申し出と、支援者渡航の協力（渡航活用＝2 団体 6 名）」

日本郵船グループ
「支援物資の輸送のお申し出」

ソフトバンクモバイル
「携帯電話の無償貸出（基本料金と通話料の免除）（活用＝6 団体）」

三菱東京ＵＦＪ銀行
「義援金口座の開設（振込手数料免除）」

イーココロ！（ユナイテッドピープル）
「ウェブを通じたクリック募金紹介の協力」

Give One（パブリックリソースセンター）
「募金プロジェクト立ち上げによる募金協力」

YAHOO！ボランティア（ヤフー）
「ウェブを通じたクリック募金紹介の協力」

物資によるサポート

伊藤忠インドネシア会社
「毛布数千枚のお申し出」

エイ アンド エフ
「バックパック等アウトドア用品（支援活動従事者の携行品として）」

全日本空輸
「毛布 210 枚、枕 200 個、靴下 100 足（配布＝SVA）」

ブリヂストン タイヤ館
「サンダル5,500足（エコピア サンダル プログラムとして）（配布＝ADRA）」

組織力によるサポート

日本製薬工業協会
「国際委員会アジア部会の会員会社へ義援金の呼びかけ」

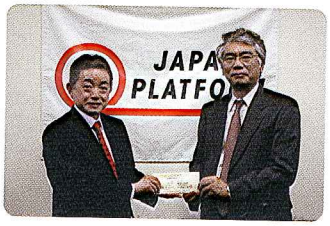
ジャカルタ・ジャパン・クラブ
「インドネシア国内における情報共有」

日本商工会議所
「ジャカルタ・ジャパン・クラブへの仲介」

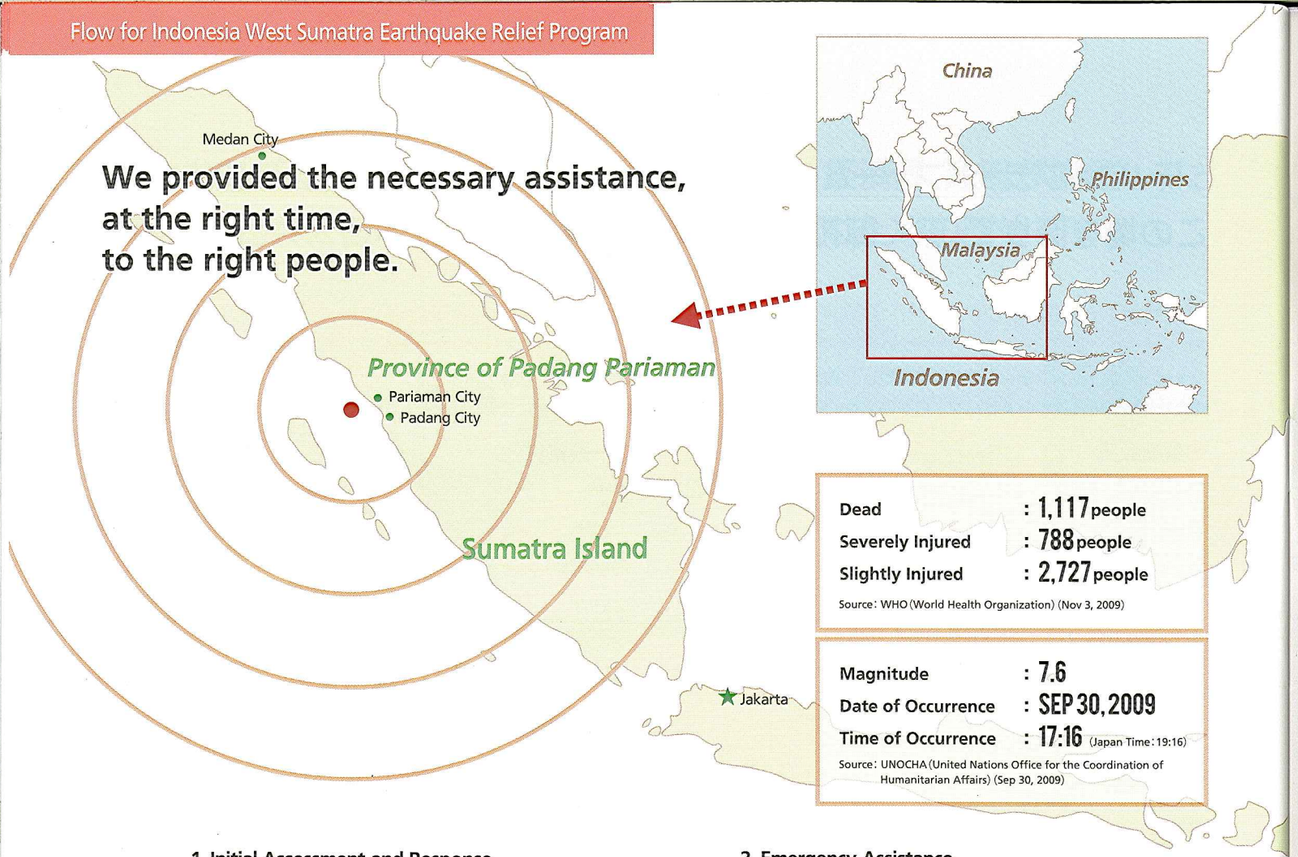
関西経済連合会
「義援金の呼びかけ」

日本経済団体連合会
「日本経団連 1% クラブニュースを通じた義援金呼びかけ」

50 音順



We provided the necessary assistance, at the right time, to the right people.



Dead	: 1,117 people
Severely Injured	: 788 people
Slightly Injured	: 2,727 people

Source: WHO (World Health Organization) (Nov 3, 2009)

Magnitude	: 7.6
Date of Occurrence	: SEP 30, 2009
Time of Occurrence	: 17:16 (Japan Time: 19:16)

Source: UNOCHA (United Nations Office for the Coordination of Humanitarian Affairs) (Sep 30, 2009)

1. Initial Assessment and Response

Oct 3, 2009 ~
132,458,945 Yen

Implementing NGO
AAR, ADRA, EWBJ, GNJP, JAFS, JEN, JRA, NICCO, PWJ, SCJ, SVA

Type of Assistance
Initial Assessment, Relief Item Distribution, Medical Treatment Relief, Education and School Support, Disaster Prevention Assistance, Psychosocial Care, Water and Sanitation Relief

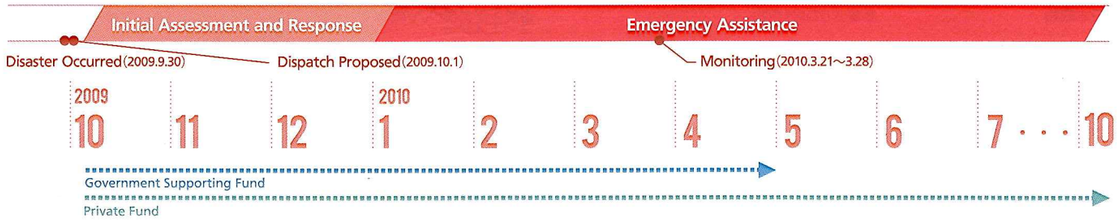
2. Emergency Assistance

Jan 1, 2010 ~
63,359,669 Yen

USD1 = 90Yen

Implementing NGO
ADRA, EWBJ, JAFS, JEN, SCJ, SNS, JPF

Type of Assistance
Education and School Support, Disaster Prevention Assistance, Water and Sanitation Relief, Corporate Relief Item Distribution, Monitoring and Evaluation



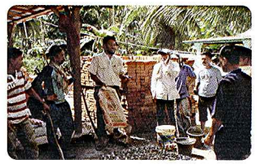
*Projects planned to be continued through self-funding and other supporting funds after completion of the JPF program.

Total count of 221 supports was provided through corporations, organizations and individuals. We express our utmost and sincere appreciation for all of your support.

Initial Assessment and Response ①
SCJ staff distributing school supplies and playground equipment to the teacher of an affected school. ©SCJ

Initial Assessment and Response ②
Glance of a fire drill conducted as part of the educational workshop for disaster prevention. ©JEN

Emergency Assistance ①
JAFS staff and experts monitoring a water station. ©JPF

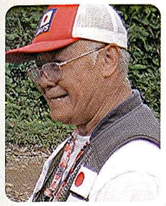


Emergency Assistance ②
SNS staff providing technical training to the affected people during construction coaching tour. ©SNS

We provided relief utilizing the strengths of each NGO.

Japan Asian Association & Asian Friendship Society (JAFS)

http://www.jafs.or.jp/



Takeo Fujiwara

Project Manager
Experienced in on-site training to empower local communities in a number of natural disaster cases

Mutual cooperation of residents cultivated through the project

After the earthquake occurred, we provided relief in three phases from October 12, 2009 to March 31, 2010 including relief item distribution and well digging mainly at elementary schools.

The purpose of well digging was to ensure supplies of water for drinking and daily use, the most basic human needs, near dwellings so that the residents would have peace of mind and enough time in their lives, and further, collaborate toward reconstruction.

On providing relief, we started by explaining the details of our relief plan to local residents including landowners, schools, district government, and ministry of education. We provided relief only after having MoU regarding the maintenance and management of the facilities. We always paid attention that no conflicts would arise due to our relief project. Moreover, we did not leave every decision to the local staffs. Our international staffs diligently traveled around to the affected villages and ascertained what the needs of the villagers were. Then, they talked with the villagers about what was necessary to meet those needs.

As the results of our project, the residents were able to understand that mutual cooperation could solve problems at various phases of the project. Furthermore, the project not only provided the physical facilities but also reminded the local communities the importance of solution steps (Plan Do Check Action) to improve their environment.

Words of Appreciation

We used to go all the way to the river to wash ourselves and do laundry. In the dry season, the river had little water and was full of garbage as well. Due to that, our bodies got itchy very often. But now, we are glad that we can easily access clean water in our community and even let our children bathe in our house. Thank you very much.
– Ms. Upi, housewife, 37 years old

JAFS staff preparing for relief item distribution in front of mayor' s house in an affected village. ©JAFS

Children washing their feet before praying at water station set up in an elementary school. ©JAFS

JEN

http://www.jen-npo.org/

Ayako Wakano

Indonesia West Sumatra Earthquake Relief Program Program Officer
In charge of the headquarters from December 2009 to April 2010

Power for reconstruction supported by rubble removal and disaster prevention education

On this project, we mainly distributed the tools necessary to remove rubble of houses destroyed by the earthquake. By using the tools, the affected people were able to recover furniture and clothing that had been buried under the rubble, and rebuild their lives with the household goods they used to have before disaster. Also, moving the rubble enabled them to create the space for evacuation tents.

Moreover we provided disaster prevention education. Due to lack of accurate knowledge about earthquakes, some of the affected people understood the earthquake to be "a punishment from God" and were mentally hurt. Also, groundless rumors such as "there will be another earthquake in a few weeks" were spreading, and they were frightened by those rumors. It is certain that our disaster prevention education created peace of mind for them by giving knowledge about mechanism of earthquake and response when affected.

In this way, the tool distribution to remove rubble and the disaster prevention education resulted in a variety of benefits for the affected areas and supported the power of the affected people to undertake reconstruction. These activities were only made possible by all of you who gave support.

Words of Appreciation

Thank you very much for your support to Indonesia West Sumatra Earthquake Relief Program. Thanks to your prompt support, JEN was able to start relief activities immediately after the earthquake occurred. I am deeply grateful that you gave your trust to Japanese NGOs through JPF, when promptness was most needed for emergency relief. We as a member of JPF will continue relief project in the areas of conflict and natural disaster, so please let us ask for your ongoing support.

Affected people removing the rubble of destroyed house with the tools they received. ©JEN

Teachers and students listening carefully to an explanation by JEN staff to operate and maintain the toilets. ©JEN